

伊豆市議会議員 小長谷順二 市政報告 通信

Vol.21 2018.1



小長谷順二 後援会事務所
伊豆市土肥 450-7
TEL/FAX 0558-98-0400
http://konagayajunji.web.fc2.com/
Email photo-ko@yc5.so-net.ne.jp
facebook

小長谷順二 検索

明けましておめでとうございます。

皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。また平素より、議員活動に温かいご支援、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

伊豆市では「自ら考え、自ら行動する組織」を目指し「地域づくり協議会」制度を推進しております。現在、市内13地区の内、土肥・小土肥、西豆、湯ヶ島、月ヶ瀬、熊坂、八岳の6地区でこの事業に取り組んでおり、新たに中伊豆大東地区で準備会が設立されました。

まちづくりにおいては、市民と行政が互いの特性を踏まえ、これまでの役割を見直し、信頼と適切な役割分担によるパートナーシップに基づきながら、これから担うべき新しい役割について共通の認識を持つ必要があると考えており、よりいっそう地域の活性化に取り組む所存でございます。

本年も変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様にとりまして実り豊かな年となりますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成29年第4回 伊豆市議会定例会一般会計補正予算おもな事業と条例の一部改正について

地域振興施設（道の駅）建築・設備・水際公園工事 1億3,190万円

国土交通省が整備している天城北道路の延伸に伴う天城湯ヶ島IC（仮称）の整備が平成30年度末の開通をめざして進められています。この道の駅は、『指定管理制度』を導入し、市が整備する「地域振興施設・広場・テラス・水際公園」、施設全体を一括して指定管理の範囲とし、管理運営の自由度が高まり、創意工夫ある企画や魅力ある自主事業など運営のノウハウを活かした事業展開が可能となり、道路利用者への良好な休憩場所の提供及び地域情報等の発信により、市民と来訪者との交流を促進するとともに、地域産業の振興並びに地域の防災拠点として市民に福祉の向上を図ることを目的とする施設。



インターチェンジ付近の工事現場

修善寺東こども園の早期建替えによる新こども園整備事業

文教ガーデンシティ事業の修善寺東こども園の新設は否決されましたが、9月議会において『修善寺こども園の整備促進』が全会一致で決議され、執行部は地権者及び近隣住民への説明後、地元説明会を行ってきました。

今議会で、新こども園建設事業費として設計委託料6,900万円、土地鑑定業務委託料85万円の補正予算が可決されました。児童発達援助事業所を併設し平成32年4月の開園を目指す。



修善寺東こども園

伊豆市下水道条例及び農業集落排水処理施設の一部を改正する条例

老朽化する下水道施設の機能維持を確保するための下水道使用料金の改定について平成29年7月26日から11月7日まで全5回に渡り『伊豆市下水道事業審議会』を開催し検討を行いました。

下水道使用料は住民の理解を得て適正な受益者負担のもとに安定した経営を維持することが重要であるが、当市で下水道使用料により賄われているのは、汚水処理に要する維持管理費の**59%**に過ぎず、県内の他市町に比べて低い水準となっている。

一方、既存の下水道施設の機能を維持していくための修繕費用は、将来に向かって継続的に生じるため、大幅な削減は期待出来ないだけでなく、県が管理する「狩野川東部流域下水道」の維持管理負担金単価が、平成28年度に値上げされたことによる経費の増額要素もあり、改定額は、近隣市町の使用料の見直し状況を踏まえ、市民生活や事業活動に与える影響を考慮して、一般汚水に係る使用料は下水道使用料により維持管理費の約**70%**を賄う事ができる水準とし、「改定率は約**27.1%**とすることが妥当である」との答申を受け議会で承認されました。

【施行期日】 平成30年4月1日

伊豆市には流域下水道の他、特定環境保全公共下水・農業集落排水施設の8施設があり、近隣市町に比べ維持管理費が多く掛かっている状況。

現行及び改定後の使用料体系			
(金額は税抜き)			
汚水種別		現行	改定後
一般汚水	基本料金 (1月につき)	250円	320円
	水量料金 (排出量1立方メートルにつき)	85円	108円

小長谷順二の一般質問 (第4回定例会 平成29年12月4日)

1.小水力発電実用化の可能性

Q 伊豆市地域水道ビジョン (H25.3)、伊豆市環境基本計画 (H28.3) の環境・エネルギー対策の目標に記載されている「小水力発電の可能性の研究」に基づき質問を致します。

A 温暖化対策としてなるべく早く実用化したいと考えていますが、河川法や水利権等の法的な手続きが煩雑であり、土砂や落ち葉等が堆積をして流路を含めた施設の維持管理の手間と費用が掛かるデメリットがあります。来年の夏ごろに中伊豆地区で民間の事業者が小水力発電を事業化する予定なのでそこをしっかりと見させていただき、実態を検証したい。

意見 静岡県では、「ふじのくにエネルギー地産地消推進事業」で市町や民間事業者による導入を支援する助成事業を行っています。河川専用等、課題はありますが、「地産地消電源の確保の為に」をこれらの助成を活用し、地域のエネルギーを生み出すプロジェクトが進んで行く事を願います。



戸田新田 小水力発電設備

2.幼児健診について

Q 土肥地区の幼児検診は平成27年度までは土肥支所で実施していましたが、平成28年度から生きいきプラザで実施するようになり、保護者から土肥支所での受診を「再開して頂きたい」と多くの声が上がっていますので、保護者意見の対応について伺います。

A 保護者との懇談会で再開を望む声が多かったので、保護者の皆様にアンケートを実施した結果、来年度は土肥地区での幼児検診を再開する方向です。

意見 現在、土肥支所5Fは学童保育やフラダンスクラブが使用していますが、エアコンが故障しています。これらの整備を行い利用者のより良い環境を整えて頂きたい。



3.超大型の台風21号の被害を踏まえた今後の防災対策と防災啓発・教育事業について

Q 10月23日3時頃、季節外れの台風21号は「超大型」の勢力を保ち950hPaで御前崎市付近に上陸しました。来年は狩野川台風発生から60年になります。今後の防災対策と未曾有の災害を次代に伝える防災啓発・防災教育事業についての所見を伺います。

A 今後の防災対策として、小土肥大川河口の堆積や八木沢地区の逆流の課題ははっきりしているので、県と対策を進めて行く必要があります。

防災啓発・教育事業は、国交省が事務局の「狩野川台風の記憶をつなぐ会」の事業の推進と熊坂小学校で「狩野川台風を学ぶ会」・「狩野川学習」を実施しています。最近では国が「防災河川環境教育」実践ガイドを作成したので、来年度は天城小学校で砂防をテーマに実施する予定。

意見 来年は伊豆市にとって節目の年になります。過去の大災害を風化させることなく、国や県と更なる連携を図り、今生きている人たちに防災の大切さを伝えて行く事業に取り組んで頂くことを願っています。



小土肥大川河口堆積状況



八木沢西浜地区冠水被害

第20回

小長谷順二 市政報告会開催
平成30年1月22日(月)PM7時～
伊豆市土肥支所 4F集会室

12月中旬より、「土肥・小土肥」、「西豆地区」地域づくり協議会主動で住民のご意見を伺う為に『土肥小学校の利活用に関するアンケート』を配布しました。

1月中旬までに回収し、アンケートの結果を踏まえ、土肥小学校の利活用の検討の協議が始まると思います。検討委員会の立ち上げについて多くのご意見を伺いたいと思いますので、報告会で意見交換を行いましょう。